二〇一五年五月二二日

蟹二匹ハイタッチしてすれ違ふ　　治　男
ポスターは朱唇の女性夏に入る　　豆　狸
飛火野に臥して屯す袋角　　よし子
石仏の古りて傾く沙羅の庭　　なつき
全開す方丈の居間いと涼し　　ぽんこ
ゴロゴロと牧草ロール牧のどか　　こすもす

二〇一五年五月二一日

洋館の呼び鈴覆ふ蔦涼し　　なつき
亀の子の溺るるさまに四肢うごく　　司　郎
出漁の水脈キラキラと夏兆す　　有　香
薫風裡紙飛行機は森に消ゆ　　さつき
水面より半顔出して河馬涼し　　満　天
五月雨や肩を寄せ合ふ伊根舟屋　　ひかり

二〇一五年五月二〇日

ふだん着にお袈裟がけなる一遍路　　さつき
青松の林間に透く卯浪かな　　ひかり
よく熟るる木苺に手の届かざる　　豆　狸
杉襖より湧き出でし夏の雲　　さつき
さみだれに水琴窟の調べよし　　よし子
露草をしとねとしたる兵の墓　　ぽんこ

二〇一五年五月一九日

老鶯に誘はれつつ山頂へ　　豆　狸

二〇一五年五月一八日

新茶汲む家事といへどもマイペース　　あさこ
五月雨に訪ふ人もなく兵の墓　　菜　々
水撒きが日課となりし夕間暮　　明日香
どくだみの中に捨てあるビール缶　　豆　狸

二〇一五年五月一七日

揉み終へし新茶の香指につく　　三　刀
山城の土塁に拾ふ落し文　　さつき

二〇一五年五月一六日

うず高くつまるる宮の春落葉　　豆　狸
皮剥けばグリンピースの躍如たり　　よし女
箒目もおかましなしや羽抜鶏　　なつき
学問の神を鎮めて宮若葉　　菜　々
日焼クリーム塗り吟行に励みけり　　さつき

毎日句会みのる選・二〇一五年五月二五日